

# 新品種アシタバが拡げる ソーラーシェアリングの可能性



東京大学大学院理学系研究科  
植物生態学研究室研究員／  
新品種アシタバ育成者

和地 義隆氏

ソーラーシェアリングに最適な農作物として「新品種アシタバ」が注目を集めている。新品種アシタバは、ソーラーパネルを設置することによって収穫量が減るところか、逆に収穫量が増えるという特性をもつ。常に日が当たっている場所よりも半日陰の方が良好に生育する、ソーラーシェアリングには打ってつけの品種だ。

しかも新品種アシタバなら、ソーラーシェアリングに必要な農地の一時転用許可が受けやすいという。新品種アシタバの生みの親、品種育成者の和地義隆氏に、ソーラーシェアリングの可能性と農家にとってのメリットを聞いた。

## ソーラーパネル下で 収穫量がアップ

昨年、ソーラーシェアリング協会の依頼を受け、「新品種アシタバ」のソーラーパネルによる遮光栽培に関する実証研究を行いました。その結果、ソーラーパネル下の新品種アシタバは、通常の栽培よりも収量アップすることが確認されました。6月に植えて8月から収穫を始めたのですが、平均で通常栽培比16%の収量を記録しています。

月単位で見ると、8月には通常栽培の140%という収量に達しました。これは、ソーラーパネルで日光が適度に遮られることによって、葉の日焼けや、土壌の過度な温度上昇が防げたためです。

これまでソーラーシェアリングでは、作物の種類によってはある程度、収量が落ちるのは仕方ないものとされてきました。農水省の指針でも20%以内の収量減なら更新

許可されることになっていきます。しかし、新品種アシタバは全く逆です。上部にソーラーパネルを設置することにより、収量がアップするという作物なのです。

耐寒性・越冬性に優れ日本中どこでも栽培可能

その上、新品種アシタバは日本中どこでも栽培することができ、耐寒性が高く、越冬性に優れているのです。これが、伊豆諸島を中心に栽培されてきた従来のアシタバと大きく違うところだともいえるでしょう。

既に関、北海道斜里や岩手県葛巻などの寒冷地においても、生育、越冬を実証しています。ソーラーシェアリングを諦めた地域の農家にも、このアシタバなら栽培していただけます。

## 市場でも高値で取引 医薬品原料としても期待

新品種アシタバは栄養価に優れ、味が良いのも魅力です。昔から薬草としても使われてきたアシ

タバの特性はそのままに、さらに美味しく改良されています。医薬品原料や機能的食品原料などへの利用も期待されており、今後さらに販路が広がるものと予想されています。

このため市場での取引価格は高値で安定しており、収入面からみても農家にとって魅力的な作物だといえます。しかも、ソーラーシェアリングを行えば、売電収入も得られるわけですからね。「新品種アシタバ10ソーラーパネル」は、農家経営にとって理想的な組合せの一つなのではないでしょうか。

## 東大の実証研究成果を 「意見書」にまとめて 農地転用を強力サポート

現在、ソーラーシェアリングを行うためには農地の一時転用が必要であり、申請にあたっては「知見を有する者の意見書」を農業委員会に提出することが求められてい

ます。しかし、この意見書が不完全であるために、農転許可を得られないケースも少なくありません。ですが、新品種アシタバによるソーラーシェアリングなら、この課題も容易にクリアできます。昨年実施した東京大学実証研究成果を、「知見を有する者の意見書」としてまとめてあるからです。これを提出すれば、農業委員会としても拒否する理由がありません。実際、それまで10カ月間通らなかつた申請が、この意見書の提出によって簡単に許可されたという事例も報告されています。

【問合せ先】  
ソーラーシェアリング協会▼TEL0436-67-11388▼Eメール info@solar-sharing.org



実証研究が行われた新品種アシタバ栽培圃場  
(茨城県土浦市荒川沖東圃場／規模：パネル下384㎡)